

ビブリオバトル in 鳥取実施報告

高 井 亨

1. はじめに

「ビブリオバトル in 鳥取」は本年度で2年目を迎えた。学生と地域とをつなぐ試みとして、鳥取環境大学の学生を中心として、鳥取市中心市街地のギャラリーでビブリオバトル（書評合戦）を初めて実施したのは2013年の7月であった。その後、第2回を2014年1月に、第3回を2014年の7月に、そして第4回を2015年の1月に実施し、回を重ねることができた。

筆者がまちなかでビブリオバトルを実施したことの背景は高井(2014b)にも記した通りであるが、その概要を述べれば、鳥取市中心市街地における大学生の少なさを感じたことに由来する。すなわち、少しでも学生と地域との交流が生まれ、学生が地域に何らかの価値を提供できればと考えたことによる。そこで、大学生によるまちなかでの活動として、特別なスキルを持たなくても学生が気軽におこなえ、かつ大学生にとって学修効果の高いイベントであるビブリオバトルを導入することにした。ビブリオバトルをまちなかで実施したことの効果については高井(2014a)に記した。

本稿では、2014年度に実施したビブリオバトル in 鳥取の概要を報告し、これまでのビブリオバトル in 鳥取の成果についてまとめるとともに、今後の展望について述べたい。

2. ビブリオバトルとは

ビブリオバトルとは立命館大学准教授の谷口忠大氏が日本学術振興会特別研究員であった2007年に考案した書評ゲームであり「知的書評合戦」とも呼ばれている。「人を通して本を知る、本を通して人を知る」がキャッチフレーズであり、谷口(2013)によれば、職場、学校、地域等様々な場におけるコミュニケーションツールとして有用である。

ビブリオバトルのルールは以下に示すとおりきわめて単純である。

1. 発表参加者が読んで面白いと思った本を持ち寄る。
2. 順番に一人5分間で本を紹介する。
3. 各発表の後に参加者全員でその発表に関する質疑を2、3分行う。
4. 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を行い、最多票を集めたものを「チャンプ本」とする。

以上から明らかなおおり、ビブリオバトルは特別なスキルをもたずとも、だれもが、参加できるイベントである。

3節では実際のビブリオバトルの風景をご紹介することで、学生たちにとって有用なコミュニケーションツールとしてビブリオバトルが機能していることを示したい。

3. 2014年度ビブリオバトル in 鳥取実施概要

鳥取環境大学によるまちなかのビブリオバトルを「ビブリオバトル in 鳥取」と名付けて実施した。主な発表者は鳥取環境大学の学生であり、聴衆は学生に加え一般市民も多く訪れた。第3回を2014年7月に、第4回目を2015年1月に実施した。それぞれに参加した学生は鳥取環境大学の必修科目である「プロジェクト研究1～4」を履修している1, 2年生が中心であり、その他、過去に筆者のゼミを履修した学生や環境大学のサークル「創作研究会」のメンバーである。

3.1 第3回ビブリオバトル in 鳥取

3.1.1 概要

日 時：2014年7月27日（日）13時半～17時

場 所：ギャラリーそら（鳥取市栄町駅前サンロード）

紹介者：プロジェクト研究1・3「ビブリオバトル in 鳥取」を受講している1、2年生13名と
昨年のビブリオバトル in 鳥取を履修した学生4名の計17名

参加者：鳥取環境大学生17名、担当教員1名及び一般参加者18名（計36名）

実施方法：17名を3つのセッションに分け、セッションごとにチャンプ本（聴衆が最も読みたい
と思った本）を選出した。選出の方法は一人一票による多数決。

3.1.2 当日のセッションと紹介書籍一覧

以下に紹介書籍を示す。

【当日のセッションと紹介書籍一覧】

セッション1「永遠のトップバッター脇田が勝てる日は来るのか？」

1. 銀河英雄伝説 / 田中芳樹・・・脇田幸弘（経営1年、岐阜県出身）
2. 桃組プラス戦記 / 左近堂絵里・・・石川佳奈（環境1年、山形県庄内地方出身）
3. やはり俺の青春ラブコメはまちがっている / 渡航・・・白築駿（環境1年、鳥根県出雲出身）
4. ねこ弁 弁護士・寧々と小雪の事件簿 / 大門剛明・・・水田梨乃（環境1年、鳥取県鳥取市出身）
5. 清須会議 / 三谷幸喜・・・小倉亮（環境2年・昨年前期履修生、兵庫県北西部出身）
6. 面白南極料理人 / 西村淳・・・須永千波（経営1年、沖縄県宮古島出身）

セッション2「All You Need Is BiblioBattle」

1. 思い出のマーニー / ジョーン・ロビンソン・・・下萩健人（環境2年、鹿児島県屋久島出身）
2. All You Need Is Kill / 桜坂洋・・・酒井隆成（環境1年、兵庫県丹波出身）
3. パズル / 山田悠介・・・谷川良輝（経営2年、広島県瀬戸内出身）
4. 男と女の進化論～すべては勘違いから始まった～ / 竹内久美子
・・・細野玲奈（環境2年、兵庫県姫路市出身）
5. そして生活は続く / 星野源・・・河野花映（経営1年、兵庫県姫路市出身）
6. パン屋のくまちゃん / 森山京・・・佐藤悠吾（経営2年・昨年前期履修生、宮崎市出身）

セッション3「絶対女王と精鋭バトラーに純也& ASAKI が殴り込み」

1. 他力 / 五木寛之・・・武田大二郎（環境2年、鳥取県八頭郡出身）
2. 読まず嫌い。 / 千野帽子・・・館野遊馬（経営1年、富山県富山市出身）
3. キノの旅 / 時雨沢恵一・・・松崎純也（環境2年・昨年後期履修生、東京都練馬区出身）
4. 深夜特急1 香港・マカオ / 沢木耕太郎・・・浅木京平（環境2年・昨年前期履修生、広島市出身）
5. 世界一素朴な質問、宇宙一美しい答え：世界の第一人者100人が100の質問に答える
/ ジェンマ・エルウィン・ハリス編・・・永田可奈絵（経営2年、長崎県大村市出身）

3.1.3 結果

投票の結果各セッションで次の3冊がチャンプ本として選ばれた。

セッション1「永遠のトップバッター脇田が勝てる日は来るのか？」

バトラーは以下の5人。永遠のトップバッター脇田。知的な外見とは裏腹に実はギャグ漫画が好きな石川。出雲出身で落ち着いた雰囲気の水田。無類のエグザイル好き水田。宮古島から鳥取に送り込

まれた優等生須永。第1回ビブリオバトル in 鳥取にてチャンプ本を獲得した経験もある創作研究会からの刺客・小倉。

バトルの結果、戦国武将「丹羽長秀」の魅力の切々と説いた小倉による「清須会議」を、南極での生活の珍事をユーモラスに紹介した優等生須永による「南極面白料理人」が1票差で交わしチャンプ本に。須永は学内大会にて一度チャンプ本を獲得しておりこれが二度目のチャンプ本獲得となった。

チャンプ本「面白南極料理人」 紹介者：須永千波（経営1年）

コメント：みなさんのおかげで受賞できました。ありがとうございました。



セッション2「All You Need Is BiblioBattle」

屋久島からやってきた生真面目な青年下萩。キャプテン翼のキャラクターと見紛う容姿の酒井。起業を志し、山田悠介を愛してやまない谷川。見た目は今時の20歳、これまでの読書冊数はほとんど0、仕事はしっかりの細野。どこか鋭い視点のおしゃれさん河野。そして昨年度ビブリオバトル in 鳥取で会場を沸かせた佐藤。以上5人が登場。

結果、「クマの英才教育」を受けていたという佐藤が、その英才教育の成果を如何なく発揮し様々なクマを演じ「パンやのくまちゃん」になりきるなどしたが、酒井による理性的な「All You Need Is Kill」の紹介の前に敗れ去った。酒井はこれまで学内大会で2度チャンプ本を獲得しており今回が3度目となった。ちなみに、次点はこれまで山田悠介作品を押し続けてきた谷川の「パズル」と細野の「男と女の進化論」であった。細野は読書をしないにもかかわらず過去2回次点となっており今回が3度目であった。仕事はしっかり、の一面が現れた結果であろうか。

チャンプ本「All You Need Is Kill」 紹介者：酒井隆成（環境1年）

コメント：今までのビブリオバトルはすべて小説と、正統派でやってきたんですけど、最後にマンガですごい不安やったんですけど、ありがとうございました。



酒井は第3回ビブリオバトル in 鳥取のポスターの制作を担当した。

セッション3「絶対女王と精鋭バトラーに純也と ASAKI が殴り込み」

今年度の学内ビブリオバトルにてチャンプ本獲得経験のある紹介者が3名登場した。チャンプ本3回連続獲得の絶対女王永田。先日読んだ本のお蔭で最近朝に弱いのが治ったというチャンプ本1回獲得の武田。古典書の読破を目指している読書家で、チャンプ本2回獲得の館野。これらの面々に対して、その鼻を押し折ってやると意気込む昨年度履修生であり創作研究会会長「松崎純也」、そしてこれまた昨年度履修生であり、最近では遠方でのビブリオバトルにも参戦し実力をつけている、その名に濁点は一切入らない「浅木京平」が戦いを挑んだ。各自が、読み込みの深さや、話芸の巧みさといった、それぞれの持ち味をいかんなく発揮し、今回、最も熱いバトルが繰り上げられた。

松崎が昨日の靴下=昨日の足袋(きのうのたび)を履いて「キノの旅」を紹介するという、女子受けが最悪のネタを仕込んで会場を沸かせたものの、結果は絶対女王永田の「足下」にも及ばなかった。靴下も替えられないような男はNo Thank You!というメッセージであろうか。ちなみに次点は武田の紹介した「他力」であった。困難な時代を生きる我々へのメッセージだそうである。



チャンプ本「世界—素朴な質問、宇宙—美しい答え：世界の第一人者 100 人が 100 の質問に答える」

紹介者：永田可奈絵（経営 2 年）

コメント：すみません。4 連覇ありがとうございます。ここに来る前までは自信があったんですけど、（他の紹介者の発表を）聴いて、すごい自信なくなっていて、ちょっとうれしいです。ありがとうございます。

3.1.4 成果

第 3 回ビブリオバトル in 鳥取（2014 年度プロジェクト研究 1・3「ビブリオバトル in 鳥取」）にはビブリオバトルを既に知っていた学生が受講生として多く集まるなど、読書家がそろっていた。学内でおこなった 3 回の大会ではマンガの紹介がっさいないなど、これまでのビブリオバトルとは雰囲気がだいぶ変わったことも印象的であった。また、回を重ねるごとに紹介者のレベルは高くなっていることが感じられた。

なお、来場の皆様から頂いたアンケートの結果、すべての回答者から「今後もビブリオバトルを観戦したい」とのご回答を得ることができた。



3.2 第 4 回ビブリオバトル in 鳥取

3.2.1 概要

日 時：1 月 25 日（日）14 時半～17 時半

場 所：鳥取市栄町「ギャラリーそら」

紹介者：プロジェクト研究 2・4「身近な「なぜ」を研究する」を受講している 1, 2 年生のうち 7 名と鳥取環境大学の学生 5 名と一般参加の柴田倫也さんの計 13 名

参加者：学生、教員、一般参加の計 34 名

実施方法：13 名を 3 つのセッションに分け、セッションごとにチャンプ本（聴衆が最も読みたいと思った本）を選出した。選出の方法は一人一票による多数決。

3.2.2 当日のセッションと紹介書籍一覧

セッション 1 「鬼＋犬＋童話＝？」

1. 泣いた赤鬼 / 浜田廣介・・・榎原翼*（環境 2 年、広島県出身）

2. 燃えよ剣 / 司馬遼太郎・・・今島凧* (経営1年、鳥取市出身)
3. 本当は恐ろしいグリム童話 / 桐生操・・・角川耕太 (環境2年、和歌山県串本町出身)
4. いぬのえいが一小説・ポチは待っていた / 竹内清人・・・吉村洋美* (環境2年、徳島市出身)

セッション2 「清風カット軍団とビブリオバトル in 鳥取皆勤賞浅木の激突」

1. 魍魎の匣 / 京極夏彦・・・大下雅人 (経営2年、清風高校出身)
2. 懲役339年 / 伊勢ともか・・・家田浩平* (環境2年、清風高校出身)
3. ゴールドスタンダード / マイク・シャシェフスキー、ジェイミー・K. スパトラ
・・・形部友哉* (経営1年、徳島県出身)
4. 海賊とよばれた男 / 百田尚樹・・・浅木京平 (環境2年、広島市出身)
5. 世界遺産に行こう:自然遺産編 / 学研パブリッシング・・・加々見祐佳* (環境1年、倉敷市出身)

セッション3 「学生たちは太宰の津軽に勝てるのか？」

1. 津軽 / 太宰治・・・柴田倫也 (倉吉市からの一般参加)
2. レイアウトのデザインを読む。情報デザインのロジックを学ぶ / 高柳ヤヨイ
・・・岸田卓也* (経営1年、大阪府堺市出身)
3. マンガで分かる心療内科 / ゆうきゆう (作) ソウ (画)・・・松崎純也 (環境2年、練馬区出身)
4. 昆虫はすごい / 丸山宗利・・・環境学部2年 小倉亮 (環境2年、兵庫県出身)

*印は2014年度後期プロジェクト研究受講生

3.2.3 結果

投票の結果各セッションで次の3冊がチャンプ本として選ばれた。

セッション1 「鬼+犬+童話=?」

セッション1の司会は中学時代の同級生コンビである岸田と井出 (経営学部2年、飛び入り参加) であった。大阪人の2人は、息の合った漫才のような掛け合いを見せてくれた。

セッション1の紹介者と紹介本は次のとおりである。自らの魅力で女の子を振り向かせたいという、彼女いない歴20年の横原は「泣いた赤鬼」。県立図書館で本を読むのが好きな鳥取出身の今島は「燃えよ剣」。和歌山は潮岬からやってきた角川はブックオフで入手した「本当はおそろしいグリム童話」。徳島出身で柴犬の「めりかちゃん」を飼っている働き者の吉村は「いぬのえいが」である。



バトルの結果、新鮮組を「野良犬がだんだんと飼い犬になっていく様として描いた（今島談）」と評する「燃えよ剣」他2冊を、捨てられた犬ポチが親切な男の子山田君に会いに行く話「いぬのえいが」が、会場をあたたかい空気で包み、下した。

チャンプ本：いぬのえいが・・・吉村洋美（環境2年）

コメント：あんなグダグダだったんですけど、ありがとうございます。ぜひ読んでみてください。

セッション2「清風カット軍団とビブリオバトル in 鳥取皆勤賞浅木の激突」

ビブリオバトルの司会と言えはこの人、ビブリオバトル in 鳥取終身名誉司会者の称号を持つ松崎と、松崎の手綱をしっかりと握る男小倉のコンビによる司会でセッション2は幕を開けた。

本セッションの発表者は次の通りである。大阪清風高校出身の大下に、これまた同校出身の家田、ともに清風カットで高校時代を過ごした二人はビブリオバトルへの参加歴は浅いものの実力者である。スポーツと自己啓発本を愛好するという文武両道な形部。ビブリオバトル参加数最多で鉄道オタクでドラマーの浅木。料理と海外が好きな加々見。以上5人がバトルを繰り広げた。

結果、家田が紹介した、輪廻転生が信じられている世界において犯罪者の懲役刑がその生まれ変わりに引き継がれるという「懲役339年」が、大下のバイブルという「魍魎の匣」、ビブリオバトル皆勤賞浅木の「海賊と呼ばれた男」、形部紹介のバスケットボールアメリカ代表ヘッドコーチ著「ゴールドスタンダード」、加々見紹介の「世界遺産に行こう：自然遺産編」を下した。ちなみに司会の松崎君が、加々見が行きたいという世界遺産へ一緒に行かないかと申し出たものの、「いや、あの・・・」とやんわり断られた。

チャンプ本：懲役339年 / 伊勢ともか・・・家田浩平（環境2年）

コメント：まだまだ話は続くと思うので、どんな展開になるか楽しみなんですけど、みなさんも良かったら一緒に読んでもらって、感想を共有したいと思います。ありがとうございました。



セッション3「学生たちは太宰の津軽に勝てるのか？」

前2組の司会に触発されたのか、大下、角川両名が名乗り出て司会を務めた。二人の司会は中庸を得て安定したものであり、模範のような司会であった。

本セッションの発表者は次のとおりである。ご自身をクマのような男と評する一般参加の柴田さん。「声に関する仕事がしたい」と、自称声に自信のある岸田。毎回ビブリオバトルを自身のプレゼンお

よび司会で汚し続けるもののビブリオバトル普及委員でもある松崎。過去2回チャンプ本獲得経験のあるビブリオバトル普及委員の小倉。以上4名である。

発表者全員がプレゼンには自信があると思われる強者たちの戦いとなった中で、「太宰の本質＝ユーモア精神」が詰まっていると説いた柴田さんの「津軽」が、そのゆったりとした魅力的な語り口も相まって圧倒的に強いかと思われた。しかし結果はなんと、自らのトークでビブリオバトルを汚しまくった松崎に軍配が上がった。松崎は各種ビブリオバトルの大会に出場するも勝てなかった歴史をようやく払拭することができた。

チャンプ本：マンガで分かる心療内科・・・松崎純也（環境2年）

コメント：結構みなさん、好きなんですね？（注：松崎君の下ネタ満載の発表に対して）全然勝てないと思っていたんですけど、毎回、頑張っ、頑張っ、頑張っでも勝てなかった私ですけれども、おもしろかったということでもいいですよね？はい、ありがとうございました（笑）。



3.2.4 成果

第4回ビブリオバトル in 鳥取は、発表者の水準がこれまで3回のビブリオバトルと比較して、ハイレベルな大会となった。過去にビブリオバトルを経験した学生が増え、そのような学生が積極的に参加したことや、一般からの紹介者が登場したことが要因であったと考えられる。結果、バトルは極めて見ごたえのあるものとなった。なお、来場の皆様から頂いたアンケートの結果、回答者27名中25名の方から「楽しむことができた」との回答をいただいた。



4. おわりに - まとめと展望

2014年度に実施したビブリオバトル in 鳥取の概要を報告した。昨年度に引き続き、今年度も観戦者の評価は高いものであった。また、ビブリオバトルに参加した学生の学修効果も高いものであった(昨年度の分析例ではあるが、高井 2014a がある)。これが何よりも重要な点である。それ自身に学修効果が存在するビブリオバトルに、「地域」という要素を加えることで、特段「地域」を意識せず、学生が日常的な学習を通じて地域活性化にも一役買えるのである。

特筆すべきは、ビブリオバトル in 鳥取に参加した学生が、自発的に地域の中でビブリオバトルを実施し始めていることである。過去のビブリオバトル参加者が中心メンバーとなって作られたサークルである創作研究会は、2014年12月に鳥取県立図書館にてビブリオバトルを開催した。外部からの発表者が半数に上り、活況を呈した。また、ビブリオバトルを商店街の活性化に生かそう試みている学生も存在する。「鳥取環境大学の学生によるサークル」企業戦略士研究会は「夜のビブリオバトル」と題し、飲食店と協力し、2015年4月にカフェとビブリオバトルとを融合したイベントを計画している。こちらも過去にビブリオバトル in 鳥取に参加した学生がそのメンバーとして活動している。

ビブリオバトルが、誰しものが簡単におこなうことができ、それでいて知的な楽しみ提供し享受することが出来るイベントであるという点を、学生がうまく利用し始めていると感じる。今後、ビブリオバトルがさまざまなコミュニティにおけるコミュニケーションツールとして、さらに有益なものへと発展することが期待される。

参考文献

- 高井 亨 (2014a) 「ビブリオバトルによる域学連携の試み」, 鳥取環境大学紀要 12, pp.53-64.
- 高井 亨 (2014b) 「ビブリオバトル in 鳥取実施報告」, 地域イノベーション研究 2013, pp.37-42
- 谷口忠大 (2013) 「ビブリオバトル」, 文春新書